

獨協医科大学

越谷病院だより

2015.2
27号



● 主な内容 ●

越谷病院「開院30周年記念感謝の集い」開催される	2~3
遺伝カウンセリングセンターの設置について	4
エコキャップ回収活動報告	4
埼玉西武ライオンズ栗山選手から絵本・DVD等が寄贈されました	5
クリスマス会“2014”	5
病院への手紙	6~7

越谷病院「開院30周年記念感謝の集い」開催される

越谷病院は昨年6月で開院30周年の節目の年を迎えたことから、これを記念し去る11月1日（土）にサンシティ越谷において「開院30周年記念感謝の集い」を開催いたしました。

当日は1部・2部構成で第1部は小ホールにおいて、教職員・外部招待者を併せ約420名の方々が来場された中、吉田副学長（越谷病院・三郷キャンパス統括管理者）から開会の挨拶の後、獨協大学経済学部教授であり、経済アナリストとしてテレビ・ラジオ等で活躍されている森永卓郎先生による「どうなる!? 日本の経済」と題した講演会が行われました。

森永先生は現在の日本経済を様々なデータを基にわかりやすく解説される一方で、先生の風貌と堂々とした態度、芸能ネタも交えたおどけたユーモアなど、硬い経済分析というより、まるで漫談でも見ているような楽しい雰囲気、終始笑いも絶えず心に残る講演会になりました。

続いて、第2部ではサンシティ「桐の間」をメイン会場とし、埼玉県、越谷市、三郷市を始めとする行政関係の方々、医師会関係、学園関係者・名誉教授（越谷病院）・関係企業・教職員など約450名が集い「開院30周年記念祝賀会」が盛大に挙行されました。



林病院長による開会の辞に始まり、稲葉学長、寺野理事長の挨拶の後、越谷市長の高橋努様（武藤副市長様 代読）、越谷市医師会長の登坂薫様からご祝辞を賜りました。



次いで、越谷病院が建設される前の近隣の風景から、昭和56年の地鎮祭に始まる病院の建築風景や開院式から、現在に至るまでの30年の軌跡をたどるDVDを上映いたしました。テレビドラマ「JIN-仁」のテーマソングに乗って、当院の敷地が更地であったころの風景や、今とは全く様相の異なる当時の新越



谷駅周辺の様子と現在を対比させた映像から始まり、開院から30年の様々な出来事に昔を懐かしむ声があちらこちらから聴かれました。そして最後には、新棟建設を始めとする未来への挑戦と更なる高みを目指す強い意志のもと、教職員が「魂」マークに結集する様子が写し出され、30年という長く重い歴史に思いを馳せるとともに、病院の未来に大きな可能性と夢を確信していただけたものと思います。



そして、吉田副学長（越谷病院・三郷キャンパス統括管理者）のご発声により乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気のもとで懇談が続き、余興として当院の医師や看護師を始めとする教職員による阿波踊りの「獨医連」による美しく、力強い踊り・演奏を披露され、会場ではたくさんの方から笑顔が溢れ、歓声と拍手がこだまし大いに盛り上がりました。

最後に上田副院長から、越谷病院が開院以来、順調な発展を続け30周年を迎えることができたことは、様々な面でご指導、ご鞭撻、ご協力をいただいた関係各位の皆様と、日々業務に励まれている全教職員のお陰である旨、感謝の意が述べられ、今後地域から信頼される医療機関を目指して全力を尽くしますので、皆さまの絶大なるご協力をお願いしますとの言葉があり閉会しました。



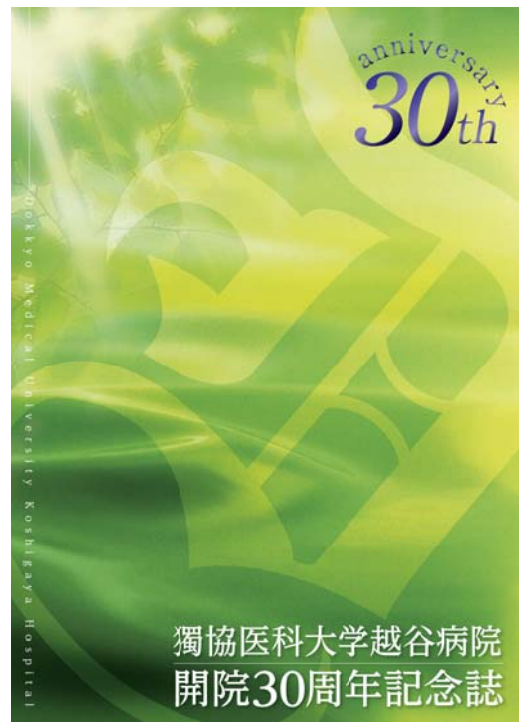
また、越谷病院開院30周年記念事業の一つとして「獨協医科大学越谷病院開院30周年記念誌」を発行しました。越谷病院において、記念誌が刊行されるのは5周年記念誌に次いで2冊目となります。この30年の間には大小さまざまな出来事があり、大学病院を取り巻く環境も、また病院自体も大きく様相を変えてきました。

この記念誌は越谷病院における各診療科、各部門の紹介を柱として、各部門の沿革、各種データを含む現在の状況に加え、将来展望に触れております。

また、巻頭には寺野理事長・稲葉学長を始めとするご挨拶のほか、歴代の病院長にこれまでの歩みを振り返りながら、今後に望むことなどを語っていただく座談会を盛り込み、30年のあらかし、移り変わり等を記録に残し、今後の歴史につなげることを目的としております。

越谷病院が引き続き色々な面で評価の高い病院として皆様から信頼され、地域にしっかりと根付いた大学病院としての使命を果たすとともに、皆様から愛されるように全職員が一丸となって努力していきたいと思っております。

今回の記念事業に際し、ご理解・ご協力いただきました関係各位に深く感謝いたします。



遺伝カウンセリングセンターの設置について

今日多くの遺伝情報が流布されていますが、日常生活や日常診療に生かすためには、正確な知識に基づいた判断が必要です。そのためには専門家からの適切なアドバイス・検査等を行い意思決定に生かすことが望めます。そこで当院では昨年 10 月 1 日から「遺伝カウンセリングセンター」を設置し、日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会の認定を受けた専門医・認定カウンセラーが紹介医や院内各科と連携をとり、診療やカウンセリングに当たっております。

〈事例項目〉

- ・ご自身が遺伝病・遺伝性疾患と言われそれについての対応を悩むとき、またご家族・血縁者にそのような方がおられ、ご自身やご家族の健康維持や対応に不安があるとき。
- ・診断された病気の定期的な経過観察。
- ・遺伝に関する検査を受けてその結果を理解した場合。
- ・遺伝に関する様々な不安や悩み。
- ・健康関連企業による遺伝検査サービスは行っておりませんが結果の内容により、ご心配の場合はカウンセリングを行います。

【注意事項】

- ・親子鑑定は行っていません。
- ・ブラダーウィリー症候群の対応は当院の小児科にお問い合わせください。

〈費用について〉

- ・カウンセリングは自費診療になります。健康保険は使えません。
- ・初診料は60分で10,800（税込）、再診料は30分で5,400円（税込）です。診療時間30分毎に5,400円（税込）が加算となります。また、特定の検査が必要な場合は別途料金がかかります。

〈予約方法〉

- ・遺伝カウンセリング診療は予約制です。
なお、すでに診断がついている場合、または他の医療機関から紹介の場合は、紹介状を持参していただくことで診療が円滑に行えます。また、ご自身の不安や要望であれば、紹介状はいりません。

【予約窓口】

- ・総合医療相談部 医療連携部門（TEL：048-965-1147）
予約受付（月曜日～金曜日 午前9：00～午後4：30 ※土曜、日曜、祝日は除く）
- ・遺伝カウンセリングセンター（TEL：048-965-1135）
変更・確認（月曜日～金曜日 午後2：00～午後4：00 ※土曜、日曜、祝日は除く）

※予約変更・確認については遺伝カウンセリングセンター窓口へお問い合わせください。

エコキャップ回収活動報告

越谷病院庶務課

当院では社会福祉及び環境保全に貢献することを目的として、平成 24 年 9 月から、院内で消費されたペットボトルのキャップを NPO 法人「キャップの貯金箱推進ネットワーク」を通じて分別・回収し、そのリサイクルによる売却益の中から発展途上国へワクチンや医療物資等を送る「エコキャップ回収活動」を開始しておりますが、直近のご報告として昨年 10 月から 11 月分の回収状況及びワクチンへの換算は下記のとおりとなりましたのでご報告いたします。

〈26年8～10月分〉	重量	個数	ワクチン	合計
	46.6kg	18,640 個	ポリオ（小児麻痺）	23.3 人分

キャップの回収 BOX については、中央棟 1 階売店前や中庭など計 3 箇所の自動販売機脇に設置し、教職員並びに患者様等、来院者の方々に協力を呼び掛けております。

私たちでも困っている人たちのために出来ることがあるという思いで、より多くのキャップを集めていきたいと考えておりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い致します。

埼玉西武ライオンズ栗山選手から 絵本・DVD等が寄贈されました

埼玉西武ライオンズの栗山巧選手から、公益財団法人がんの子どもを守る会を通じ、当院に入院中の患児に対し、絵本、アンパンマン・ドラえもん・スタジオジブリのDVD、ポータブルDVDプレーヤー、本棚など10万円相当のご寄附をいただきました。

栗山選手は、予てより知的障害児や小児がん患者を球場に招待し、東日本大震災の復興支援にも尽力。2006年から始まった幅広い活動について「プロ野球選手として、もっと多くの子どもたちに夢と希望を与える活動をしていきたい」という本人の意志のもと、今回当院にもご寄附をいただくことになりました。

栗山選手から、いただいた寄贈品については、闘病中の子供たちが心安らぐ時間を過ごし、一日も早く元気に退院できるよう大切に活用させていただきます。

最後に今回のご寄附に対し厚く御礼申し上げますとともに、栗山選手の今シーズンの更なる活躍を期待いたします。ありがとうございました。



クリスマス会“2014”



去る12月19日（金）毎年恒例となっておりますクリスマス会を開催いたしました。昨年に引き続き、外来棟1階の特設ステージにおいて獨協埼玉中学・高等学校のコーラス部による院内コンサートを行いました。クリスマスをテーマとした楽曲を中心に天使のような歌声と演奏を届けていただきました。入院患者さまや外来に来院された患者さまは学生たちのコーラスに聞き惚れ、ひとときの楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。

また、クリスマス会と並行して、サンタ、クリスマスツリー、パンダ、ペンギンに扮した病院職員とスターバックスコーヒーの有志による、小児の入院患者へプレゼント配布も行いました。子どもたちは、サンタの登場に驚きながらも、嬉しそうにプレゼントを受け取っている姿がとても印象的でした。

当院では患者さまを対象とした下記のイベントを予定しており、ぜひ多くの皆様方にご参加いただきたいと考えております。どうぞお楽しみに!!



病院への手紙にお答えいたします

～当院の各部署に設置してあります、ご意見箱に寄せられる
患者さまのご意見・ご要望等「病院への手紙」に対する回答～

* 本日の診察にて

〈年齢性別不詳〉

- ①先生の問診がないに等しい。十分に問診しないと今後の診療に影響するのでは？
- ②初診後、どういう治療をしていくのか、方針（具体的な診療内容の手順等）を説明してほしい
- ③CT等（MRI 含め）検査が必要な場合、1日ですべての検査ができる体制を構築してほしい。検査ごとに来るのは、体調や交通費など金銭面で負担がかかりすぎます。

お答えいたします

- ①医師の問診に関する記載ですが、事前に記載いただいている問診票を見ながら診察しているため、診察に不要なことは問診しない場合があります。今回のお手紙では医師名が特定されておりませんので、個別に指導することはできませんが、医局員全員に診察に必要な事項に関しては、詳細な問診をとることをアナウンスいたします。また、今後の診断に関しては詳細に問診をとり、診療に当たりますのでご心配のないようにいたします。
- ②また、初診後の治療方針に関する説明がないとのご指摘がありましたが、通常今後の治療方針については説明をしておりますが、医局員全体としての注意喚起に努めたいと思います。
- ③すべての検査を診察当日の行ってほしいとの希望については、一診療科だけでなく、病院全体の問題となることから、患者サービスの向上に反映していくよう検討していきたいと考えております。

* 病棟のトイレを明るくしてほしい

〈入院患者 性別不明〉

お答えいたします

該当箇所と思われる病棟の男女トイレ内の蛍光灯を新品に交換し、反射板の清掃を実施しました。これでしばらく状況を確認したいと思います。

* 入院食について

〈入院患者 男性 42 歳〉

2～3日に一度のうどんはやめてほしい。また中の具や味に変化が欲しい。

お答えいたします

当院の給食はサイクルメニューとなっておりますが、麺に関しては入院患者さま対象に嗜好調査などのアンケートをさせていただいた結果を反映して、1週間の回数を決めさせていただいております。

一般食、治療食とともに、患者様に楽しんでいただけるよう、そば、うどん、ラーメン、焼きそば、スパゲッティなどを提供しております。日によっては麺の種類を選べる選択メニューも実施しております。

しかしながら三分粥、五分粥食には消化の良いうどんをお出しする頻度が高くなると思われますが、全粥食以上になると上記のような麺の献立をお楽しみいただけると思われますので、栄養管理に対してご理解いただきますようお願いいたします。

* 看護師の対応について

〈41 歳女性〉

本日初めてこちらの病院を受診しました。検査の説明をする看護師の方に質問すると、「最後まで聞いてもらっていいですか」といわれました、早口で何を言っているかもわからず、疑問だらけでしたが、あの看護師の方の説明で、お年寄りや初めての人は理解できないし、不信感が残りました。そんなにイライラして説明されても・・・検査の説明は座ってしてほしいし、患者からの質問も聞いてほしいです。

お答えいたします

患者様と外来での看護師とのかかわりについて、ご指摘いただきありがとうございます。限られた状況の中での対応であり、初めて受診される患者様にとっては十分な説明ではなかったと思われ、反省しております。今後は患者様の置かれている状況をよく理解し、必ず質問等にて確認することや落ち着いた環境で説明ができるよう意識的に椅子をお勧めすることなどの行動ができるように環境の調整を実施していきたいと思っております。

* 銀行のATMについて

〈44 歳女性〉

銀行のATMが栃木銀行だけではとても不便です。セブンイレブンやファミリーマートなど、すべての銀行に預け入れができるATMを入れてもらえるともっと安心して入院生活が送れます。一患者のわがままで申し訳ありませんがご検討をお願いいたします。

お答えいたします

セブン銀行バンクにおいては、日本国内のほとんどの金融機関を対象としていて、入金ができますが、手数料がかかる場合もあります。現在のATM（栃木銀行）においては、カードによる直接入金ができない金融機関もありますが、振込機能があることから手数料がかかりますが入金は可能です。

新ATM機械の導入におけるコスト等を考慮すると、早急の対応は厳しい状況となっておりますが、一方で、先般院内にローソンが新規開店しましたので、今後ローソンのATMが導入される可能性もあるかと思われます。

病院への手紙について

患者さまから寄せられる「病院への手紙」につきましては、週1回回収し、病院長をはじめとする当院幹部役職者が目を通した上で、該当部署に回答及び今後の対応などを報告させています。

また、月1回開催している医療サービス委員会において、改善案の計画・立案を行っており、改善できるものは早急に改善し、反省すべきご指摘は謙虚に反省し、検討を要するものは少しでも患者さまのご要望にお応えできるよう日々努力しております。

この「病院への手紙」については、性格上そのほとんどが匿名であることから、該当部署から直接ご本人に回答することはできませんが、皆様からのご意見を当院の貴重な財産として真摯に受け止め、より良い病院づくりの一助にしたいと考えております。

なお、皆様からのご意見、そしてその回答については、この病院だよりを通じて一部ご紹介させていただきますが、それ以外のものにつきましても、現状において可能な限り然るべき対応を行っていることをご理解賜りたいと思っております。

